



6月号 第238号

発行日 平成23年6月1日(水)
発行所 八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住 所 八王子市みつい台2-13-12
TEL (042) 691-3671
発行人・磯部 信広
編集者・三浦 和夫

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高齢者が、碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高齢者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

<http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/>

「勝負の赤壁」によせて

元八王子寿碁同好会相談役 佐宗 源治

碁雑誌で「勝負の赤壁」と題する寄稿文(1年12ヶ月分)を見ました。抜粋して紹介したいと思います。主たる内容は日本と中国の碁界を対比して、日本の棋士が中国棋士に勝てない理由はなにか、又どうしたら良いかと云う事です。寄稿者は孔令文六段で、中国聶衛平九段が父、孔祥明八段が母、小林覚九段が岳父、本人は日本棋院所属です。

1972年、日中の国交が再開され、坂田栄男九段や藤沢秀行名誉棋聖等の訪中で、碁交流が始った。当時は日本より弱かった中国碁界であったが、徐々に力をつけ、日本に追い付け追い越せを目指して発展した。

中国棋院の設立は1992年で比較的新しい事、国の管轄する体育局の下に置かれており、他のスポーツと同じように頭のスポーツ — 「勝負」 — だと考えられておりました。碁の他にチェス、シャンチー(中国将棋)、ブリッジ、チェッカー、連珠も共通、国の管轄になっています。又基本的にアマチュアとは関りをもたない。

中国プロ棋士が強くなった理由としては、幼な時から国営塾とか聶衛平道場とか有数の道場(年々道場は変る)で鍛錬、毎年行われる入団試験や段位戦を行い、入段後、年令別戦で勝ち残った一握りの人が「少年隊」に入る事になるが、その厳しさは想像を絶する苛酷なものであると云ってよい。その天才的な子供を更に強くする教育法として「競争」が大きい役割を果す。目標は世界一になる事であり、コーチは一人一人に合ったプログラムを考え、与える。詰碁、ヨセを含めどれ程の「読み」が成されるか、勉強量を含め大変な努力が要求される。スパルタ式も導入、徹底的に扱われる。これらの処方が日本型勉強法と大き

く異なる領域であると云ってよい。その結果として実力が培われ国家隊（チーム）の一員となり成功の暁には戸籍毎（日本流に云って）北京に移動する事になる。要は将来を約束された「出世」となる。

日本棋院についても触れてみる。囲碁の総本山として「芸」を重んずる歴史があり、詰碁、ヨセの勉強をしても芸は備わらないという考え方が脈々と受け継がれている。そして答えの出る場面ではなく答えが出ない無限の局面に挑戦するロマンに芸を求めてしまうのではないか。（碁を芸として捉えるか、勝負として捉えるかというテーマは非常に重要であり考え処でもある）

囲碁を勉強する子供達の中で幼少からプロを目指す人は極めて少なく、院生の上位にならないと「プロになる」という自覚すら余りないように見受けられる。中国や韓国の強いプロ棋士と互して戦える棋士となるには若い世代から危機感を持たせる環境作りを指導者側も整え置く必要がある。本人の危機感を持たせるには、中国の同年齢の子供の強さを知ってもらい、その差を経験してもらおう事だと思う。日本国内で敵なしだった井山裕太小学生名人が中国に渡り苦い経験をした。その時受けた衝撃と危機感が現在の井山名人を築きあげた一端ではないかと私は思っている。

一昨年12月孔令文六段を団長として中野杯優秀者が中国に遠征した。中野杯は20才以下のプロ棋士と院生上位者の参加するトーナメント戦であり、優勝者が村川大介五段、二位志田達也三段、三位李沂修初段を軸に10名が参加、対戦結果は12勝48敗の大差で敗れた。村川五段は3勝3敗、志田三段と李初段は共に0勝5敗で終了した。中国側の11才の楊鼎新（ヨーテイシン）初段、李傾城（リケイジョウ）初段に日本棋士は誰も勝てませんでした。誠に衝撃的な事実でありまして、この厳しい現実を皆さんに知って戴きたいと思います。

また昨年の3月、孔令文六段を団長として日本院生10名の希望者が中国棋院の招待で現地を訪問、移動日を除く3日間、各人が6局宛の対抗戦を行った。その結果は18勝42敗でした。数字の上から見ると大きく負け越したが、上位3者に絞ると10勝8敗と勝越しでした。中国のプロを目指す上位者と後半に登場した国家チーム少年隊に所属するプロ棋士と互角以上の戦績を残した事になる。これは驚きの結果でした。正直云って中国に追いつくには20年位かかると思っていたのがチャンスはある。新たな光が見えた、大きな勇気を得た合宿でした。少年隊コーチを務める俞斌（ユヒン）さん等からも「彼等の強さは本物だ」と高い評価をもらいました。私が最も感心したのは伸び伸びと打っているという事でした。自分の可能性を試そうという気概を持ち勝敗以前に堂々と戦いに挑んでいた。この姿勢が勝越しという結果につながったのではないかと思われた。では、この結果を今後どのように日本囲碁界の棋士向上につなげたら良いのか、実はここからが大切なのです。俞斌さん等が「日本にこんなに強い子供達が居る事は大いに楽しみですすね」という評価の後に「でもここからです」と懸念も示された。前述の国家チーム少年隊の子供達は、更にコーチ達による英才教育の徹底化が計られ、実力発揮されるであろう事は充分予想されるので、日本側子供達のこれからについて危機意識の養成、「読み」の熟達等、大いに頑張ってもらいたいと思っています。

最後に聶衛平氏の言葉として、『碁が後世に残るとしたら、絶対に「芸」であってほしい。日本囲碁界が証明してきた様に残るのは必ず「芸」だ。でも、今を勝ち抜きたかったら、勝負にこだわらざるを得ない。』との一説がありました。一考に値すると思います。

以上

第20回 活いき囲碁大会のご案内

大和田大会

日時 平成23年7月3日(日) 受付 午前9時00分～9時30分
 会場 大和田市民センター(大和田町5-9-1 Tel 645-8980)
 申込先 会長・井出 道明 大和田町7-17-6 Tel・Fax 644-7417
 申込期限 6月19日

石川大会

日時 平成23年7月24日(日) 受付 午前9時00分～9時30分
 会場 石川市民センター(石川町438 Tel 642-0220)
 申込先 会長・松本 健彦 久保山町2-33-16 Tel・Fax 691-8343
 申込期限 7月10日

2大会とも

主催 各寿囲碁同好会
 後援 日本棋院 八王子市 八王子市教育委員会
 参加資格 市内に居住している60歳以上で10級以上の囲碁愛好者
 参加費 700円(弁当代を含む) 非会員 800円
 競技方法 2ないし3のクラス別に行い、入賞者には賞品を進呈します。
 申込方法 できるだけ同好会の会長を通して申し込んでください。

第21回 活いき囲碁恩方大会の結果

5月8日(日) 於 恩方市民センター

参加者

恩方	浅川	元八	中野	大和田	石川	台町	北野	長房	川口	非会員	合計
27	5	6	2	1	2	2	4	4	15	11	79

第1組 20名

優勝：五十嵐寛 恩方/7段 準優勝：福田 卓 恩方/6段 3位：吉田信夫 台町/6段

第2組 24名

優勝：竹内朝晴 恩方/4段→5段 準優勝：佐藤裕久 恩方/5段 3位：山本数英 川口/5段

第3組 20名

優勝：長澤勝美 川口/2段→3段 準優勝：森田泰夫 川口/3段 3位：加藤 司 非会員/3段

第4組 15名

優勝：山田清志 元八/1級→初段 準優勝：野口勝彦 元八/1級 3位：武登悦子 浅川/1級

第22回地区団体対抗囲碁会の結果

平成23年度第1回 5月15日開催

元八王子 7勝	入山 慧三 6段 笠原 正 4段	中村 幸雄 5段 宇井 久 3段	長島 廣 4段 平山 統 1級
浅川 11勝	神宮寺敏郎 7段 永坂 道雄 3段	小黒 尚 5段 梶原 和夫 2段	望月 成一 4段 西口 正宏 1級
中野 7勝	井上栄次郎 7段 宮崎 誠一 5段	磯部 信広 6段 松野 勲 3段	清水 文彦 6段 望月 毅士 3段
石川 11勝	坂本 勝雄 7段 田村 強 3段	中村 順二 5段 野嶋 孝征 2段	二宮 学 4段 本間 邦夫 初段
大和田 4勝	藤井 忠明 7段 安田 実 2段	鈴木 浩治 5段 栗原 久男 2段	秀島 照次 4段 小川 勝 1級
恩方 14勝	吉沢 實 7段 竹内 朝晴 5段	五十棲健一 5段 長尾 昌彬 3段	池田 清吾 5段 長谷川幸二 初段
台町 10勝	高本 衛 7段 雨宮 三男 3段	吉田 信夫 6段 飯田 清志 初段	宮川 将美 5段 知見 道貫 2級
由木 8勝	大場美美夫 7段 穂積 宏易 3段	市谷 智雄 7段 西田 誠 初段	杉渕 清 6段 川野 吉弘 2級
北野 7勝	石神 芳雄 7段 淵本 康方 3段	安原 明 5段 橋本 孝義 2段	佐々木胖充 4段 中岡 誠 2段
川口 11勝	若徳囲廣志 7段 豊野 収 3段	井上 国臣 5段 東海林寛昭 初段	余多分明男 4段 斎藤 三男 1級

※ 台町対由木戦は会場の都合により5月22日に開催されました。

※ 田村 強 さん（3段/石川）が4段に昇格しました。

◎同好会便り

恩方寿囲碁同好会会長 吉沢 實

我が家の近くを城山川が流れている。このほつりを散歩するのが好きである。早春の萌黄色に染まる山を眺め、川には鴨も鯉も優雅に泳いでいるのを観賞する。ときどき、わが恩方寿囲碁同好会の会員ともすれちがう。囲碁をより楽しむための体力作りに励んでいるのだらうと勝手に想像している。

さて、アマチュアにとって囲碁の一番の上達方法は楽しむことだとプロの石倉九段が言っている。そこで、わが同好会の平成22年度昇格者を確認してみると8名で、そのうち1名は2階級昇段している。同好

会が設立されてから16年間の実績と、和やかな雰囲気の中で、まさに「楽しみながら」囲碁を打っている証だと思う。

それでは、ここで会の現況と今後の課題について述べてみたい。

1. 会員数 37名 7段～5級
2. 会費 4000円（年）
3. 年間活動
 - (イ) 例会 毎日曜日 恩方市民センター（午後1時～5時）
 毎水曜日 森林組合八王子事業所（午後1時～5時）
 - (ロ) 活きいき囲碁大会 年1回（5月）
 - (ハ) 囲碁大会 恩方住民協議会主催 年2回（3月、9月）
 - (ニ) 温泉一泊囲碁大会 石和温泉や保養施設などで年2回元八王子や北野の同好会と合同で行っている。
 - (ホ) 碁楽連本部が主催する地区団体対抗、碁楽連大会、棋聖大賞大会、タイトル大会

今後の課題としては、新規会員をどのように確保していくかが大きな悩みであるが、会員以外でも気軽に参加できるように門戸を開いておき、地域の方々にアピールしていきたい。

投稿

三陸津波と碁石海岸の夢

北野寿碁同好会相談役 刀根正樹

(一)

『囲碁の道 老いも地震も 踏み越えて』

学生の頃、初めて三陸を旅した。松島から女川にまわり、捕鯨の事業場で解体処理作業の実習をした。捕鯨船に便乗し、鯨を追跡し、捕獲する迫力に酔った。

船員寮に宿泊した夜、寮長から碁石海岸の話聞いた。海辺に碁石が美しく敷かれているという。大船渡の名勝で、ここを訪れると、碁の達人になれるとの話であった。当時私はまだ囲碁を知らなかったので、聞き流していたが、その後ずっと碁石海岸のことが脳裏を過ぎった。

時は流れ、四十半ばの頃、八戸から三陸鉄道で南へ旅をした。北山崎の名勝に立つと、足下から200mの断崖が切り立ち、暗い海面に白波が牙をむいていた。目をあげれば、黒ずんだ大海原が私を呼んでいた。引き込まれるような恐怖を覚え、海の魔物が私を狙っていると思った。東日本大震災の津波をテレビで見て、私は北山崎の海を思い出したのである。

三陸鉄道をさらに南下し、宮古で下車した。取引先の営業マンと旅館で碁を打った。腕はさほどでもなかったが、男性的なおおらかな棋風だった。翌日彼の車で浄土ヶ浜に行った。純白の岩が一行に並び、群青の海に浮かんでいる。名僧靈鏡が『さながら極楽浄土』と評したというが、私にも死後の世界に見えた。津波に流された人々の霊が、今そこに集っているのであろうか。

(二)

3月11日午後、私はクリエートホールの図書館にいた。旅行のガイドブックをとり、長椅子に腰を降ろした。三陸の頁をめくっていると、隣席のおばさんが話しかけた。『オッサン体をゆすらんでよ。あれ変だね。棚の本が落ちる。こりゃ地震だよ。大きい、大きい』おばさんはすっと立ち上がり、入り口へ向かって走った。机の下に頭をもぐらせた人々。エレベーターが停止した。階段を駆け降り、ビルの外に出た。あちこちに女性がしゃがみ込んでいる。駅では電車が止まり、人々が立ちすくんでいた。ビッグカメラのテレビコーナーに行く。地震報道が画面を流れる。宮城沖が震源で、津波が来るとアナウンサーが叫んだ。

バス停は長蛇の列であった。老女が声をかけて来た。『またゆれてますね。そこの超高層ビル、倒れて来ませんか。わが家には熱帯魚の水槽があります』『津波が来るそうですから、三陸の人々にも被害を生じるでしょう』この時、これほどの死者不明者が出るとは、予想もしていなかったのである。福島原発が爆発した。放射性物質が降り、野菜が汚染され、各地で出荷停止になった。住民の避難が続いた。

私は右腕をくじき、痛みがひどく、動かさなくなった。碁楽連の日曜の試合では、左手で打ったが、すぐ疲れて、思考停止になり、負けがこんだ。

昔の会社仲間から連絡があり、新宿歌舞伎町で酒をくみかわし、碁を打った。女川の工場に十年つとめ、現地の女性と結婚していた。かつて彼が働いた工場は津波で壊滅し、多くの人々が亡くなったという。碁を打ちながら彼は涙を流した。故人をしのび、弔いのための囲碁だといった。『そしてわれわれの弔いでもある』といって号泣した。

その夜、私は春眠の夢の中をただよった。女川の船員寮で、寮長が怒りほえていた。『女を寮につれ込む奴があるか。ほれ見い。海神が怒って、津波をよこしたぞ』私は寮横の坂道をかけ登った。行く手の峠に松が立っていた。白波が追いせまり、足を洗った。私は漂流した。『海に帰る日が来たのか。母なる海へ』碁石海岸の横を流れた。岸で碁を打っている人がいた。藤沢秀行である。私を見て、にっこり笑った。彼は湘南の海に散骨したという。それから私はさらに流れ、浄土ヶ浜に打ち上げられた。『はるけくも 夢の旅路や 浄土ヶ浜』

◎第2回碁楽連理事会報告

日時 平成23年4月23日(土) 9:00~12:00

出席者 理事5名(三浦理事欠席)

- 議案
1. 大会における賞状段級位記載について
 2. 生きいき大会の清算方法、その他会計処理について
 3. その他情報交換

編集後記 6月は5月と共に一年で花の数が多い月、また緑も色濃くなってきました。碁楽連も生きいき大会が元八王子・中野大会、第2回地区団体対抗囲碁会があります。素晴らしい季節のもと、囲碁を打てる幸せを味わいながら大いに楽しみましょう。